



平成28年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 梅の花
 コード番号 7604 URL <http://www.umenohana.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 梅野 重俊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役管理本部長兼経理部長 (氏名) 上村 正幸 TEL 0942-38-3440
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年9月期第3四半期の連結業績（平成27年10月1日～平成28年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第3四半期	22,507	0.5	205	△41.2	191	△29.4	43	△56.2
27年9月期第3四半期	22,389	△1.6	350	△51.6	271	△59.7	98	△77.0

(注) 包括利益 28年9月期第3四半期 15百万円 (△85.7%) 27年9月期第3四半期 108百万円 (△74.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第3四半期	5.94	—
27年9月期第3四半期	13.32	11.24

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年9月期第3四半期	26,415	5,669	21.5	826.68
27年9月期	21,159	6,930	32.8	939.44

(参考) 自己資本 28年9月期第3四半期 5,669百万円 27年9月期 6,930百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
28年9月期	—	0.00	—		
28年9月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成28年9月期の連結業績予想（平成27年10月1日～平成28年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,481	2.4	185	0.5	119	0.0	21	—	3.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正につきましては、本日（平成28年8月12日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年9月期3Q	7,489,200株	27年9月期	7,489,200株
② 期末自己株式数	28年9月期3Q	631,677株	27年9月期	111,608株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年9月期3Q	7,252,313株	27年9月期3Q	7,377,600株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成28年8月10日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果により、緩やかに回復に向かうことが期待されます。しかし、中国を始めとする新興国や資源国等の景気が下振れするリスクがあり、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響、熊本地震の経済に与える影響に留意する必要があると言われる中で推移いたしました。

このような状況のもと、新規出店等により当第3四半期連結累計期間の売上高は、225億7百万円（前年同期比100.5%）と前年同期を上回っておりますが、営業利益につきましては広告宣伝費等の費用により2億5百万円（前年同期比58.8%）と前年同期を下回り、経常利益は1億91百万円（前年同期比70.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は43百万円（前年同期比43.8%）となりました。

今後の出店につきましては、ポイントカード顧客分布や商圈分析に基づき、未出店エリアのみならず認知度を上げる事を目的とした候補地選定を行ってまいります。梅の花の小型店舗の展開も模索しており、加えて、新規業態の出店にも積極的に取り組んでおります。また、自然災害等に対するリスクの分散及び中長期的な出店並びに物流の効率化を見据え、京都府綴喜郡井手町に新工場（セントラルキッチン）建設の準備を進めております。

店舗の出店及び退店につきましては、外食事業4店舗出店及び3店舗退店、テイクアウト事業8店舗出店及び4店舗退店により、当第3四半期連結累計期間末の店舗数は、273店舗となりました。

なお、セグメントの状況は次のとおりであります。

(外食事業)

外食事業におきましては、客数増加を第一義ととらえ、飲み放題付の歓送迎会メニューをご利用しやすい価格で提供、さらに湯葉と豆腐の店梅の花30周年、かに料理専門店かにしげ40周年の創業祭特別企画を実施する等、お客様の来店頻度の向上に努めました。

持ち帰り商品につきましては、父の日企画として、はこ寿司やうどんすき鍋セット、牛しゃぶセット、すき焼きセットを販売し、さらに期間限定でレトルトパックを低価格にて販売する等により、売上の底上げに注力いたしました。

5月には、新業態として大人の女性のライフスタイルに寄り添うカフェスタイルのレストラン「食のつむぎ 梅の花」を枚方T-SITE（大阪府枚方市）に出店し、幅広い年齢層のお客様の取り込みを目指しております。

以上の結果、売上高は133億42百万円（前年同期比98.2%）、セグメント利益6億2百万円（前年同期比86.8%）となりました。

なお、販促費や水道光熱費の経費の見直しを行うとともに、お客様のニーズに合わせた店舗改装等、必要な箇所には費用を集中し費用対効果の向上を図ることにより、利益率の改善に向けて取り組んでおります。

店舗数につきましては、梅の花は1店舗出店し72店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は3店舗出店及び3店舗退店し9店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は87店舗となりました。

（テイクアウト事業）

古市庵テイクアウト店におきましては、「価値を高め合おう」をスローガンに価値ある商品を提供できるように心がけております。

売上増加策といたしましては、毎月定期的に行っている手巻き寿司の日や、いなり寿司の日等のイベント、母の日二段重、他業種とのコラボ商品の販売等を行うとともに、6月の創業記念日にはびっくりいなりを創業当時の価格で販売する等の企画を行いました。また、毎月公開試食会を行うことでお客様の声を取り入れた商品づくりに取り組んでおります。

梅の花テイクアウト店におきましては、定番商品に加え、「惣菜・べんとうグランプリ2016」金賞受賞の豆乳グリーンカレーやまるごとトマトの土佐酢ジュレ等の季節商品を販売することで売上拡大を図りました。さらに、主婦の意見を取り入れた冷凍ハーフサイズ湯葉揚げを新たに販売することで、お客様満足度アップを図っております。

また、両テイクアウト店ともに外部講師による販売員セミナーを行う等、接客の質の向上にも取り組んでおります。

これらの取り組みの結果、テイクアウト事業の売上高は91億64百万円（前年同期比104.1%）セグメント利益2億42百万円（前年同期比79.4%）となりました。

店舗数につきましては、古市庵テイクアウト店は3店舗出店及び2店舗退店し134店舗、梅の花テイクアウト店は4店舗出店及び1店舗退店し45店舗、その他店舗は1店舗出店及び1店舗退店し7店舗、テイクアウト事業の全店舗数は186店舗となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ52億55百万円増加し、264億15百万円となりました。これは主に、借入により現金及び預金が52億72百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ65億17百万円増加し、207億46百万円となりました。これは主に、社債の償還により転換社債型新株予約権付社債が22億59百万円減少しましたが、借入金89億40百万円が増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ12億61百万円減少し、56億69百万円となりました。これは主に、自己株式取得により株主資本が12億40百万円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年9月期の業績予想につきましては、最近の業績の動向を踏まえ、平成27年11月13日に公表致しました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第3四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,042,100	7,314,459
売掛金	1,389,584	1,318,793
商品及び製品	100,993	94,345
原材料及び貯蔵品	191,528	219,021
繰延税金資産	179,427	125,877
その他	563,296	465,620
貸倒引当金	△1,658	△1,658
流動資産合計	4,465,272	9,536,459
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,875,231	8,051,742
機械装置及び運搬具(純額)	270,554	282,640
土地	4,930,170	5,278,988
建設仮勘定	402,277	23,261
その他(純額)	608,763	670,736
有形固定資産合計	14,086,998	14,307,368
無形固定資産		
のれん	225,669	141,043
その他	82,092	150,567
無形固定資産合計	307,761	291,610
投資その他の資産		
投資有価証券	105,557	80,870
長期貸付金	201,893	201,893
退職給付に係る資産	192,404	211,470
繰延税金資産	107,955	104,238
敷金及び保証金	1,672,142	1,695,117
その他	146,280	112,483
貸倒引当金	△126,467	△126,467
投資その他の資産合計	2,299,767	2,279,605
固定資産合計	16,694,527	16,878,584
資産合計	21,159,800	26,415,044

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	619,322	590,015
短期借入金	2,700,000	6,600,000
1年内返済予定の長期借入金	1,610,934	1,416,610
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	2,259,675	—
未払金	1,248,254	1,156,148
未払法人税等	48,600	38,320
賞与引当金	230,600	101,900
ポイント引当金	186,740	185,963
その他	631,962	708,844
流動負債合計	9,536,090	10,797,801
固定負債		
長期借入金	3,981,184	9,216,406
資産除去債務	662,789	689,073
その他	48,898	42,731
固定負債合計	4,692,871	9,948,212
負債合計	14,228,961	20,746,013
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,123,177	4,123,177
資本剰余金	3,459,117	3,459,117
利益剰余金	△477,771	△471,611
自己株式	△196,262	△1,436,639
株主資本合計	6,908,261	5,674,045
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,061	△1,849
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
退職給付に係る調整累計額	6,241	1,560
その他の包括利益累計額合計	22,576	△5,014
純資産合計	6,930,838	5,669,030
負債純資産合計	21,159,800	26,415,044

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)
売上高	22,389,134	22,507,241
売上原価	6,907,868	6,872,926
売上総利益	15,481,265	15,634,314
販売費及び一般管理費	15,130,894	15,428,466
営業利益	350,370	205,848
営業外収益		
受取利息	3,605	3,226
受取配当金	1,060	1,107
受取手数料	19,652	20,216
受取保険金	—	30,675
保険返戻金	—	16,637
雑収入	23,074	27,052
営業外収益合計	47,392	98,916
営業外費用		
支払利息	41,280	46,645
自己株式取得費用	—	22,054
貸倒引当金繰入額	39,500	—
株式関連費	39,706	37,842
雑損失	5,640	6,465
営業外費用合計	126,127	113,007
経常利益	271,635	191,756
特別損失		
固定資産除売却損	95,383	46,123
店舗閉鎖損失	35,131	—
特別損失合計	130,514	46,123
税金等調整前四半期純利益	141,120	145,632
法人税、住民税及び事業税	43,674	42,292
法人税等調整額	△853	60,292
法人税等合計	42,820	102,584
四半期純利益	98,299	43,048
親会社株主に帰属する四半期純利益	98,299	43,048

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	98,299	43,048
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,905	△22,910
退職給付に係る調整額	△4,860	△4,680
その他の包括利益合計	10,044	△27,591
四半期包括利益	108,344	15,457
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	108,344	15,457

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

株主資本の著しい変動

当社は、平成28年3月4日開催の取締役会決議に基づき、自己株式520,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、単元未満株式の買取による取得も含めて自己株式が1,240,377千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が1,436,639千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,582,193	8,806,940	22,389,134	—	22,389,134
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,822	24,011	30,834	△30,834	—
計	13,589,016	8,830,951	22,419,968	△30,834	22,389,134
セグメント利益	693,897	304,835	998,732	△648,361	350,370

(注) 1.セグメント利益の調整額△648,361千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,342,544	9,164,696	22,507,241	—	22,507,241
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,469	23,029	31,498	△31,498	—
計	13,351,013	9,187,726	22,538,740	△31,498	22,507,241
セグメント利益	602,320	242,112	844,433	△638,585	205,848

(注) 1.セグメント利益の調整額△638,585千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。